

敷島町文化財調査報告第9集
(山梨県)

金の尾遺跡Ⅲ

町道建設に伴う縄文時代遺跡の発掘調査報告

2001

敷島町教育委員会

敷島町文化財調査報告第9集
(山梨県)

金の尾遺跡Ⅲ

町道建設に伴う縄文時代遺跡の発掘調査報告

2001

敷島町教育委員会

本文目次

序文	
はじめに	1
第1章 遺跡をとりまく環境	
1. 遺跡の立地と地理的環境	1
2. 遺跡周辺の歴史的環境	2
第2章 遺構と遺物	
1. 土坑	5
2. 土坑内出土遺物	8
第3章 遺構外出土遺物	
まとめ	17

挿図目次

第1図	金の尾遺跡・周辺遺跡位置図	3
第2図	金の尾遺跡遺構配置図	4
第3図	1~10・13・14土坑	5
第4図	11・12・15~23号土坑	6
第5図	土坑内出土の遺物（1）	8
第6図	土坑内出土の遺物（2）	9
第7図	土坑内出土の遺物（3）	10
第8図	土坑内出土の遺物（4）	11
第9図	土坑内出土の遺物（5）	12
第10図	遺構外出土の土器（1）	14
第11図	遺構外出土の土器（2）	15
第12図	遺構外出土の土製品（土製蓋1・土製円盤2・3）	16
第13図	遺構外出土の石器	17

表 目 次

第1表 土坑一覧	7
第2表 土坑内出土の土器觀察表（1）	12
第3表 土坑内出土の土器觀察表（2）	13
第4表 土坑内出土の石器觀察表	13
第5表 遺構外出土の土器觀察表	16
第6表 遺構外出土の石器觀察表	17

写真図版目次

図版1-1・2 金の尾遺跡全景（A・B区）	20
図版1-3~6 1~4号土坑	20
図版2-1~10 5~13号土坑	21
図版3-1~10 14~23号土坑	22
図版4-1 11・12・16号土坑出土遺物	23
図版4-2 15号土坑出土土器	23
図版4-3 18・19・21号土坑出土遺物	23
図版5-1 遺構外出土の土器	24
図版5-2 遺構外出土の土製品	24
図版5-3 遺構外出土の石器	24

序 文

昭和52年の遺跡発見以来、金の尾遺跡は山梨県を代表する弥生時代遺跡として多くの人々に周知され、また研究の資を提供してきました。

ここに報告する調査結果では、遺跡南限の様相の一部が解明され、金の尾遺跡の新たな情報が蓄積されることとなります。

古代の生活環境を生の情報として伝えてくれる金の尾遺跡の精密な調査を今後も続け、後世に引き継いでいくことが我々に課せられた大きな責務と考えます。

最後に、今回の調査に際しまして、ご指導、ご協力をいただきました関係各位に心からお礼を申し上げ序といたします。

平成13年3月1日

敷島町教育委員会

例　　言

1. 本報告書は、山梨県中巨摩郡敷島町大下条地区に所在する金の尾遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、町道金の尾3号線拡幅工事に伴い実施した発掘調査である。
3. 発掘調査は、平成4年(1992)2月19日より同年3月12日まで行なった。整理作業は断続的に行なった。
4. 発掘調査にあたった組織は、次のとおりである。
調査主体者 敷島町教育委員会
調査事務局 敷島町教育委員会生涯教育課
5. 本書の執筆は第1章大嵩正之、第2・3章小坂隆司が担当し、編集は大嵩、小坂が行なった。
掲載写真は遺構を大嵩、遺物を小坂が撮影した。
6. 発掘調査ならびに報告書作成にあたり、次の方々よりご教示いただいた。ここにご芳名を記し、感謝申し上げる。
羽中田壮雄、閑間俊明、平山恵一　　(順不同・敬称略)
7. 発掘調査、整理作業参加者
森原智恵子、山路宏美、飯室久美恵、小野　秀、小林邦隆、関本芳子、高添美智子
羽中田俊子、浅川松子、安藤たけじ、高原陽子、若月すみ子、三井清廣、三井裕子
長田由美子、近浦正治
8. 本調査で得られた遺物及びすべての記録は、敷島町教育委員会に保管してある。

凡　　例

遺物観察表及び遺物実測図中の遺物番号は、統一したものである。また、遺物観察表備考欄には、写真図版に付けてある遺物番号を記した。

はじめに

JR中央本線竜王駅の北側一帯に広がる金の尾遺跡は、南北約400m、東西約300mの広範囲にわたる遺跡である。昭和52年の第Ⅰ次調査以来、縄文時代前、中期の住居跡、弥生時代後期の集落、周溝墓、環濠といった遺構群や遺構に伴う各時代の土器、石器類、また弥生後期の墓制のありかたを考察するうえで好資料となった蓋付壺棺など多くの資料が発見され、歴史的環境の解明を行なう上で貴重な成果が報告されている。

ここに報告する第Ⅲ次調査では、縄文時代を中心とする土坑群と縄文時代前期から後期、弥生時代中・後期、古墳時代前期に該当する土器片、石器、土製品などの資料を得ることができ、また、遺跡南限の様相も一部把握することができた。

Ⅲ次調査区域の標高は、282.78mである。 (文責 大島)

第1章 遺跡周辺の環境

1. 遺跡の立地と地理的環境

遺跡の所在する敷島町は、甲府盆地の北西端部に位置し、県都甲府市の西部に隣接する。町域は南北約15km、東西約4kmと南北に細長い帯状を呈している。北部地帯は、黒富士火山、茅ヶ岳火山、甲府北東山地火山群の一部からなる火山地帯である。黒富士火山によって黒富士山(1596m)、曲岳(1642m)、鬼煩山(1500m)、太刀岡山(1295m)が、さらに茅ヶ岳火山によって金ヶ岳(1743m)、茅ヶ岳(1703m)などの高峰が形成されている。北部山岳地帯は、谷が深く入り込み、これらの山々から発した水滴は、清沢川となって南流する。清沢川の東方域が黒富士火山、西方域が茅ヶ岳火山となる。清沢川は、亀沢地区に至って亀沢川となり、鳥居坂橋下流の牛久地区において荒川と合流する。

荒川は、奥秩父山系の金峰山(2599m)に源を持ち、遺跡周辺は、この荒川によって形成された扇状地の扇尖部分に位置する。

深く入り込んだ急峻な地形を南流する荒川は、周辺の花崗岩を優美な姿に変え、多くの人々を魅了する渓谷を創りだしている。この渓谷が国指定特別名勝【御岳昇仙峡】である。

遺跡西方から南方にかけて丁度J字状に小河川賀川が流れる。賀川は、敷島町と西方に隣接する双葉町とに跨る道尾山に源を持ち、南流し、今回の第Ⅲ次調査区南側で流れを東にかえて、甲府市街地で荒川と合流する(第1図A)。

金の尾遺跡は、荒川右岸と賀川左岸に挟まれた微高地上に営まれた古代遺跡である。

2. 遺跡周辺の歴史的環境（第1図）

遺跡の所在する敷島町は、町域の8割が山間地域から成り、残りの2割が荒川によって形成された扇状地である。町域の西側には茅ヶ岳の噴火によってできたと考えられる丘陵が伸び、扇状地の扇頂部分まで達している。これら山間、丘陵、扇状の地には、その地形環境などに応じて人々の様々な活動が繰り広げられてきた。

今回の金の尾遺跡第Ⅲ次調査地区（A）は、扇状地の扇尖部に位置し、敷島町の最南端の地である。金の尾遺跡はこれまでに今調査も含め6回の調査が行なわれている。その結果は縄文前期住居跡をはじめとする縄文時代住居跡8軒、弥生時代後期住居跡33軒、周溝墓26基、環濠跡、土壙墓、古墳時代中期や平安時代中期の住居跡などが発見されている。遺物も比較的豊富に出土しており、特に弥生土器は、中部高地系と東海系両者が混在して確認され、大変興味深い資料を提供している。金の尾遺跡は荒川と賀川に挟まれた微高地上に営まれた集落遺跡であり、甲府盆地低地における弥生時代遺跡として重要な位置を占める遺跡である。調査の結果、この微高地はⅢ次調査区南側で終わり、賀川の左岸となることが確認された。

遺跡北側に隣接する御岳田遺跡（C）は、古墳時代前期と平安時代の集落遺跡であるが、字名の関係で遺跡名を共にするが、基本的には同じ微高地上に所在する遺跡とみてよかろう。

金の尾遺跡北東約800mには平安時代を中心とする松ノ尾遺跡（B）が展開する。これまでの調査によって、古墳時代17軒、平安時代31軒の住居跡が発見されている。調査面積は遺跡全体の数パーセントに過ぎず、この数値はさらに増加するものと考えられる。松ノ尾遺跡からは11末～12世紀初頭頃と思われる阿弥陀如来の小金銅仏2躯や円鏡、布目瓦なども出土しており同時代の住居数なども考え合わせると律令体制下の巨麻郡の中心的役割を果した地域と考えることができよう。

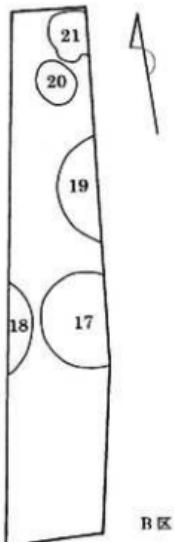
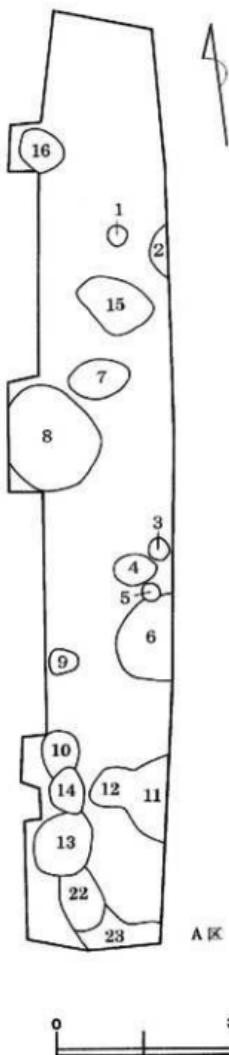
敷島町南部の扇状地上は、東西に微高地と凹地が連続する地形を形成している。この微高地上に遺跡が分布しており、金の尾遺跡、御岳田遺跡は敷島町のもっとも西側の微高地上に営まれた古代集落跡である。

先にも述べたが、金の尾と御岳田の両遺跡は、名称こそ異なるが同じ微高地上に連続と続く遺跡であり、縄文から平安時代までの遺構が確認されている。特に古墳、平安期の遺構は微高地全面に認められるのにたいし、縄文、弥生時代の生活の痕跡は微高地南端のもっとも低地周辺に近いところでしか発見されていないということを注視しなければならない。



1:20,000

第1図 全の尾遺跡・周辺遺跡位置図



第2図 金の尾遺跡遺構配置図

第2章 遺構と遺物

今回の第III次調査は、金の尾遺跡の南端部に位置する。1977・78年度の第I次調査がおこなわれた中央自動車道のちょうど南側から、L字状に蛇行する賀川の流域にかけて、南北方向に計7箇所のトレンチ（A～G）を設定し調査をおこなった（第2図左上）。

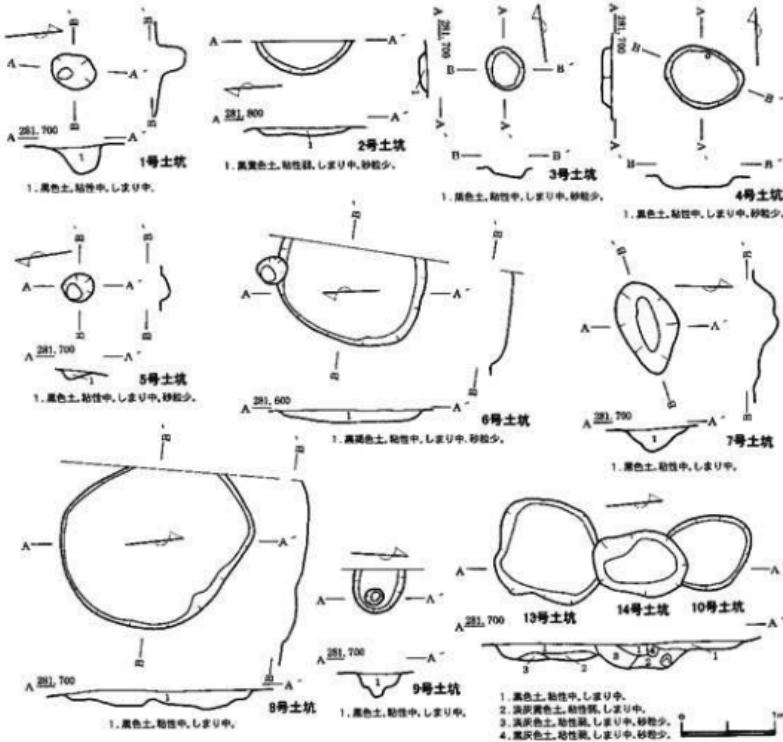
1. 土坑（第2～4図、第1表、図版1～3）

7箇所に設定したトレンチのうち、遺構が発見されたのはA・Bトレンチのみである（第2図）。

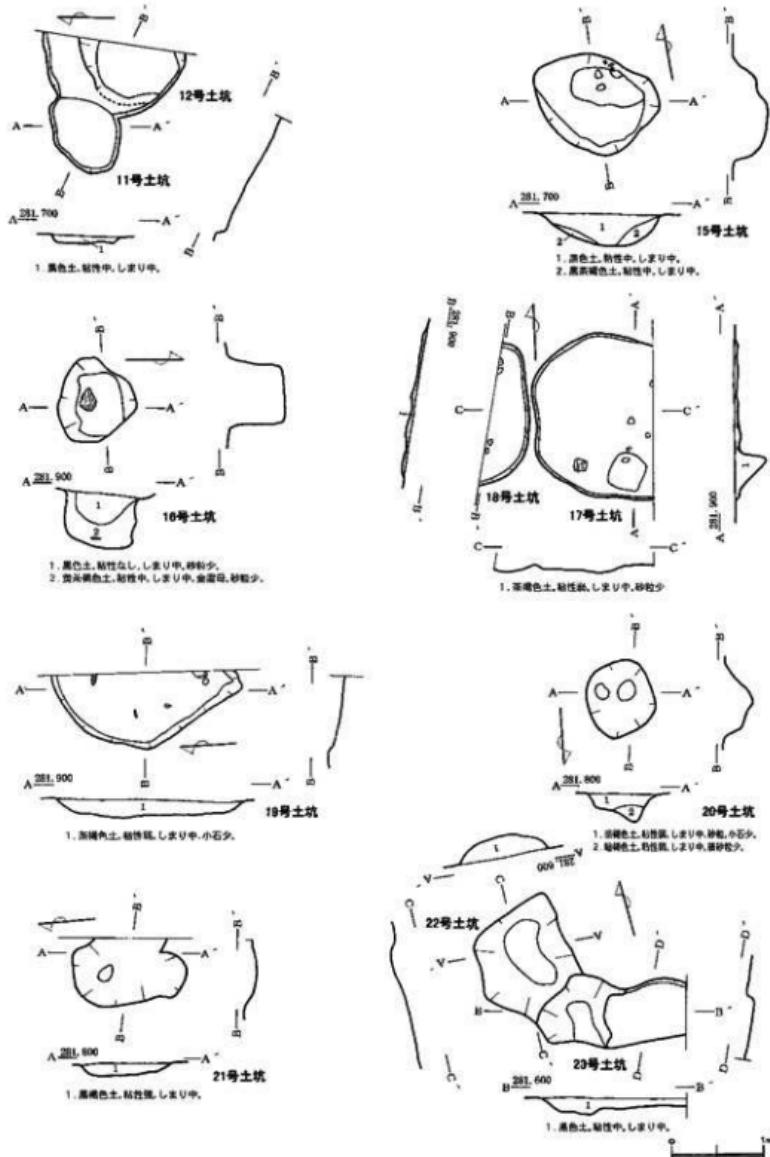
これら以外のC～Gトレンチでは、A・Bトレンチ内で遺構が確認されたような地山はすでに存在せず、賀川に近接しているためか、砂地の地形が認められるだけであった。

発見された遺構は土坑23基を数え、Aトレンチから18基、Bトレンチで5基である。

なお、A・Bトレンチから発見された各土坑については、第1表にまとめてある。



第3図 1～10・13・14号土坑



第4図 11・12・15~23号土坑

土坑番号	形態	規 模 (cm)			備 考	調査 トレンチ	図 版
		長軸	短軸	深さ			
1号土坑	椭円形	47	37	31		A	1-3
2号土坑	円形?	101	(35)	8		A	1-4
3号土坑	椭円形	45	38	10		A	1-5
4号土坑	椭円形	84	63	13		A	1-6
5号土坑	不整円形	29	34	9		A	2-1
6号土坑	隅丸方形?	158	103	13		A	2-2
7号土坑	不整椭円形	100	59	24		A	2-3
8号土坑	隅丸方形?	200	175	20	底面凹凸が激しい。	A	2-4
9号土坑	椭円形?	(47)	54	24	東側底面に直径約20cm、深さ約10cm ピット有り。	A	2-5
10号土坑	椭円形?	(74)	79	8	14号と重複	A	2-6
11号土坑	不整形	(94)	(71)	9	12号と重複	A	2-7
12号土坑	不整円形	151	(79)	11	11号と重複している。北西部にテラス面有り。	A	2-8・9
13号土坑	不整形	125	114	18	14号と重複し、14号に比べ古い。	A	2-10
14号土坑	不整椭円形	99	70	26	10・13号と重複し、10号より古く、 13号より新しい。	A	3-1
15号土坑	不整椭円形	138	100	35		A	3-2
16号土坑	不整形	90	83	59		A	3-3
17号土坑	円形?	174	(130)	34		B	3-4
18号土坑	隅丸方形?	154	(44)	8		B	3-5
19号土坑	方形?	198	(65)	20		B	3-6
20号土坑	不整円形	85	76	30		B	3-7
21号土坑	不整形	121	(74)	14		B	3-8
22号土坑	不整形	129	103	23		A	3-9
23号土坑	不整形	160	75	18		A	3-10

第1表 土坑一覧

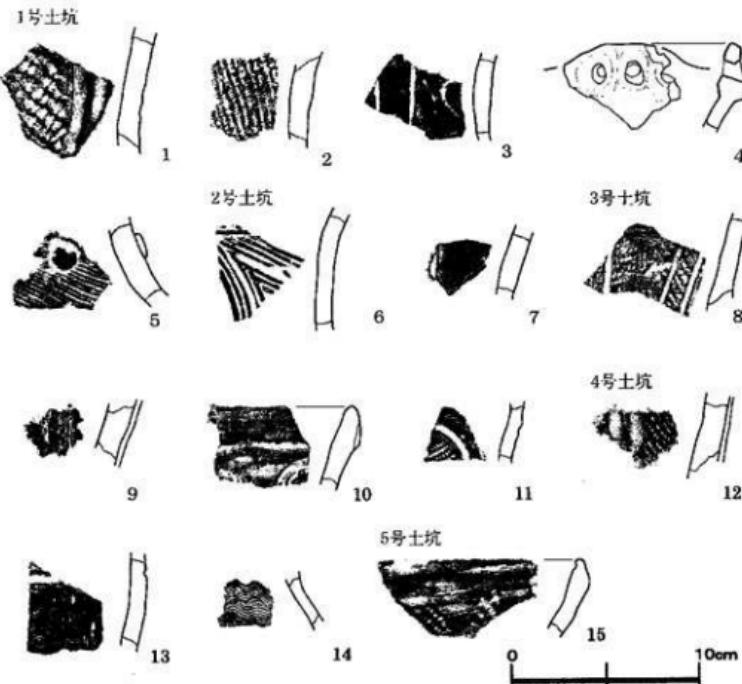
2. 出土遺物（第5～9図、第2～4表、図版4）

遺物は、23基のうち22・23号土坑を除く21基の土坑からそれぞれ出土した。

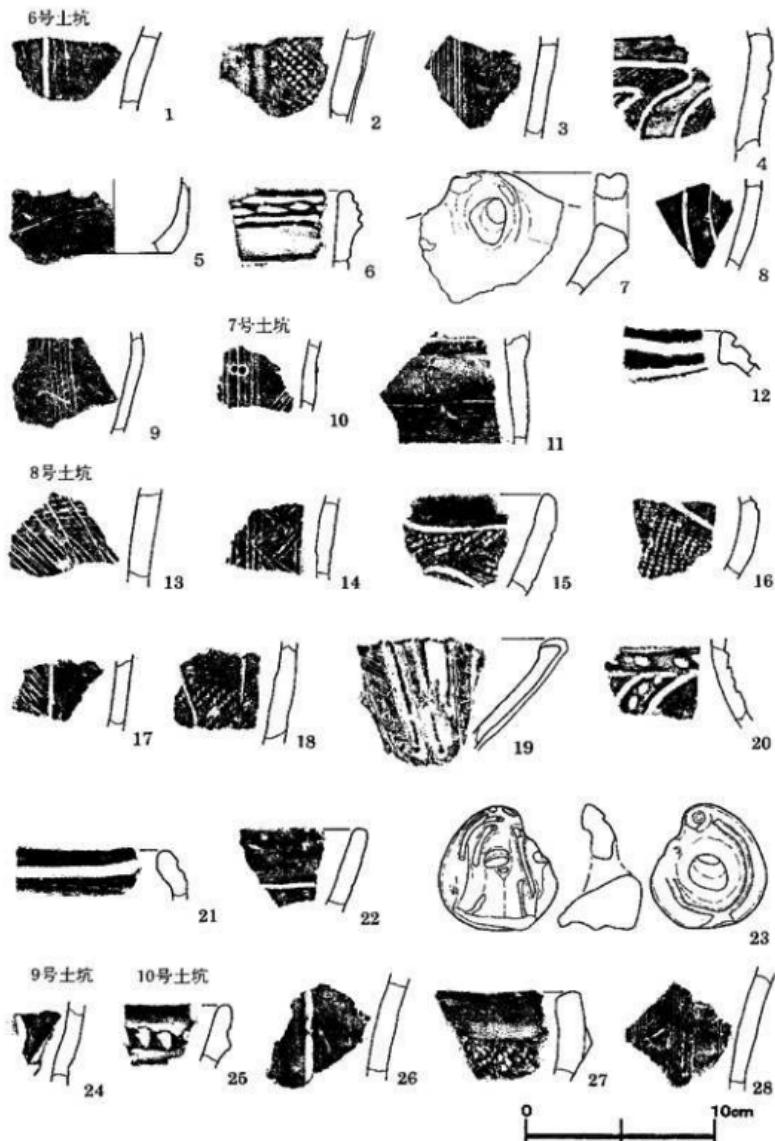
各土坑から出土した土器は細片のものが多く、時期的には縄文時代前期後半から古墳時代に属するものもみられるが、中でもとくに縄文時代中期末葉～後期にかけてのものが主体を占めている。

各土坑におけるこれらの土器の出土状態についてみると、大半は覆土中からの出土で、また同一の土坑内で複数の時期の土器片が混在して出土しているものが多い。しかし、中には12・15・18・19・21号土坑のように土坑底面の直上から出土しているものもある。

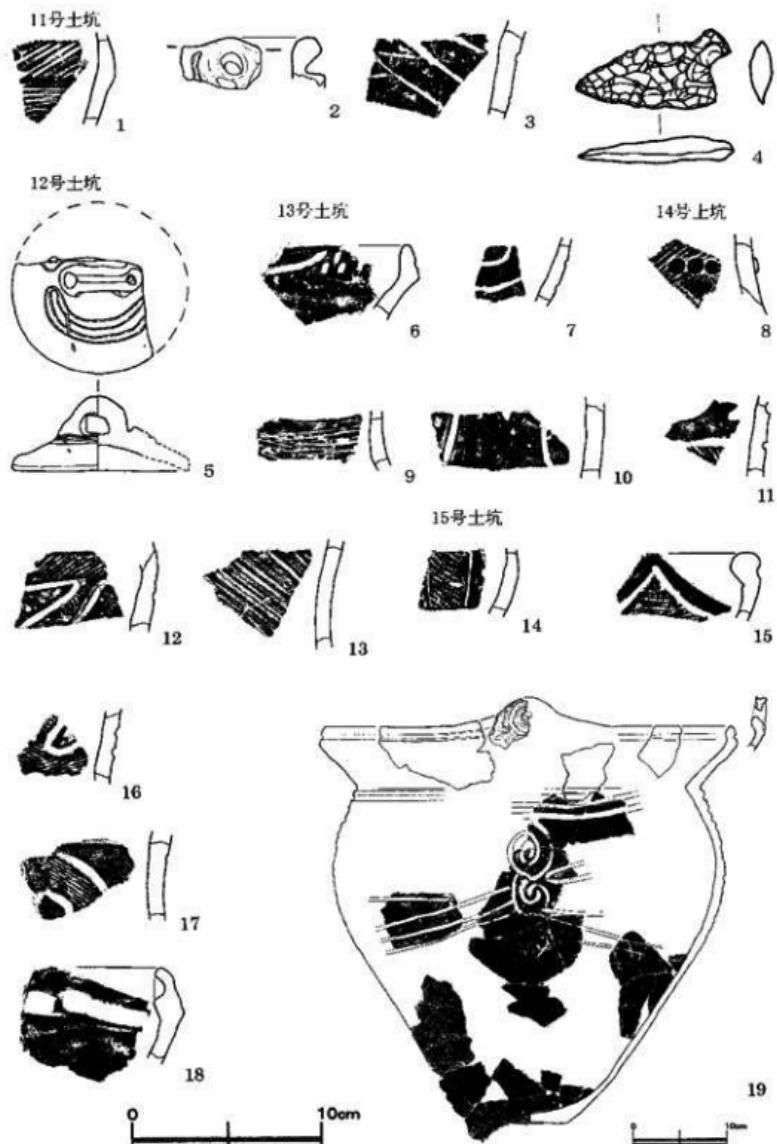
石器は11・16号土坑から石匙・石錐の各1点があり、2・6・8・14～16・19～21号土坑の9基からは黒曜石を中心として、少量のチャートの剥片類も出土している。中でも、19号土坑からは13点の黒曜石と3点のチャートの剥片が土器片とともに多く出土している。



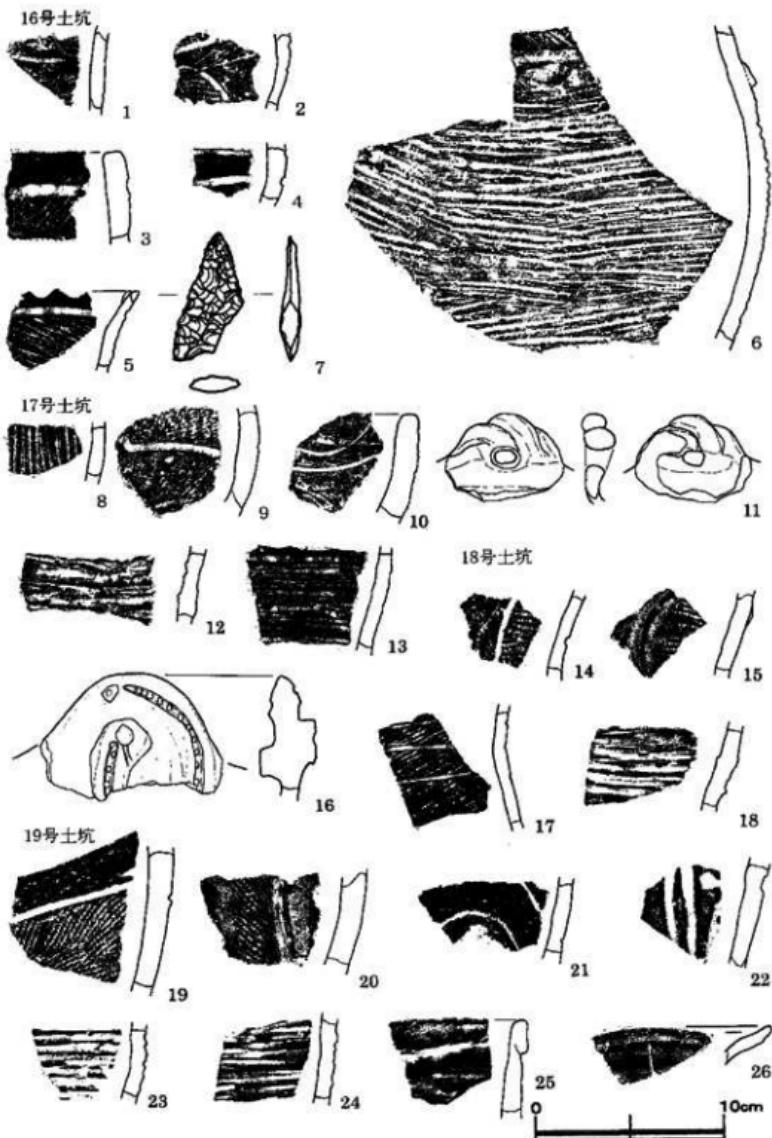
第5図 土坑内出土の遺物 (1)



第6図 土坑内出土の遺物 (2)

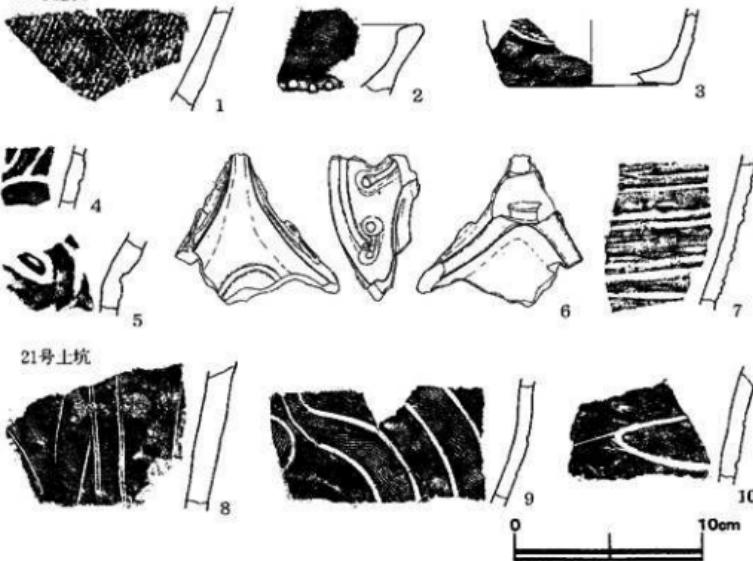


第7図 土坑内出土の遺物 (3)



第8図 土坑内出土の遺物 (4)

20号土坑



第9図 土坑内出土の遺物 (5)

No.	遺 器	部 位	文 様・調 態	色 製	附 士	備 考	圖 版
第5回 1	1号土坑	側 部	輪文B、微隆起	赤褐色	金雲母、長石、黑色粒子		
第5回 2	1号土坑	側 部	輪文LR	米褐色	金雲母、長石		
第5回 3	1号土坑	腹 部	波紋	淡赤褐色	石英、長石、赤色粒子		
第5回 4	1号土坑	口縁部		に赤い赤褐色	黑雲母、石英、長石		
第5回 5	1号土坑	側 部	輪文B、円形貼付文	明褐色	金雲母、石英、岳石		
第5回 6	2号土坑	腹 部	輪文B	に赤い赤褐色	黑雲母、赤色粒子		
第5回 7	2号土坑	腹 部	波紋	深褐色	石英、長石		
第5回 8	3号土坑	側 部	輪文LR、波紋	淡褐色	馬雲母、石英、長石		
第5回 9	3号土坑	側 部	輪文	深褐色	石英、長石		
第5回 10	3号土坑	口縁部	波紋	淡褐色	石英、長石		
第5回 11	3号土坑	腹 部	輪文LR	淡褐色	黑雲母、石英、長石		
第5回 12	4号土坑	腹 部	輪文B、微隆起	黒褐色	黑雲母、石英、赤石、赤色粒子		
第5回 13	4号土坑	側 部	波紋	に赤い赤褐色	石英、長石、赤色粒子		
第5回 14	4号土坑	側 部	輪文波紋状	黒褐色	石英、長石		
第5回 15	5号土坑	口縁部	輪文B	黒褐色	金雲母、石英、長石		
第6回 1	6号土坑	腹 部	波紋	灰褐色	石英、長石、赤色粒子		
第6回 2	6号土坑	側 部	輪文LR、圓錐起	淡褐色	石英、長石、赤色粒子		
第6回 3	6号土坑	腹 部	輪文	に赤い赤褐色	石英、長石		
第6回 4	6号土坑	腹 部	波紋、輪文LR	灰褐色	黑雲母、石英、長石		
第6回 5	6号土坑	腹 部	波紋、輪文LR	灰褐色	黑雲母、石英、長石		
第6回 6	6号土坑	口縁部	波紋	に赤い赤褐色	石英、長石		
第6回 7	6号土坑	側 部	輪文	褐色	石英、長石、赤色粒子		
第6回 8	6号土坑	腹 部	波紋	赤褐色	石英、長石、黑雲母		
第6回 9	6号土坑	腹 部	ハナ	赤褐色	石英、長石		
第6回 10	7号土坑	側 部	集合波紋、円形貼付文	に赤い赤褐色	長石		
第6回 11	7号土坑	腹 部	波紋	に赤い赤褐色	石英、長石		
第6回 12	2号土坑	山根部	波紋	燈	石英、長石		
第6回 13	8号土坑	側 部	集合波紋	黒褐色	黑雲母、長石、赤色粒子		
第6回 14	8号土坑	側 部	集合波紋	に赤い赤褐色	石英、長石		
第6回 15	8号土坑	山根部	波紋	淡褐色	金雲母、長石、赤色粒子		
第6回 16	8号土坑	腹 部	波紋、輪文LR	深褐色	石英、長石、赤色粒子		
第6回 17	8号土坑	側 部	波紋	淡褐色	石英、長石、赤色粒子		
第6回 18	8号土坑	腹 部	輪文LR	褐色	石英、長石		

第2表 土坑内出土の土器観察表 (1)

No.	遺 備	部 位	文 標・調 整	色 調	附 十	備 考	同版
第6回19	8号土坑	口縁部	集合比縫、塗状貼付	灰褐色	灰石		
第6回20	8号土坑	側 部	沈縫、刺突	灰褐色	灰石、灰石		
第6回21	8号土坑	口縁部	沈縫	灰褐色	黑雲母、石英、長石		
第6回22	8号土坑	口縁部	沈縫	淡褐色	石英、長石		
第6回23	8号土坑	突起部	沈縫、円形刺突	淡褐色	石英、長石、赤色粒子		
第6回24	9号土坑	刺 突	沈縫	褐色	金雲母、長石		
第6回25	10号土坑	口縫部	刺突	淡褐色	白雲母、長石、赤色粒子		
第6回26	10号土坑	刺 突	沈縫	淡褐色	石英、長石、赤色粒子		
第6回27	10号土坑	口縫部	沈縫	淡褐色	金雲母、灰石、赤色粒子		
第6回28	10号土坑	刺 突	沈縫	淡褐色	金雲母、石英、長石		
第7回1	11号土坑	刺 突	集合比縫、円形貼付文	赤褐色	金雲母、石英、長石		
第7回2	11号土坑	口縫部	沈縫	明褐色	石英、長石、赤色粒子		
第7回3	11号土坑	刺 突	沈縫	淡褐色	黑雲母、石英、長石		
第7回4	12号土坑	刺 突	沈縫、円形刺突	灰褐色	石英、長石	床面直上出土	4-1-1
第7回5	6-13号土坑	口縫部	沈縫、刺突	明褐色	金雲母、石英、其石、赤色粒子		
第7回6	7-12号土坑	刺 突	沈縫、編文R	黑褐色	灰石、赤色粒子		
第7回7	8-12号土坑	刺 突	沈縫、編文R	灰褐色	金雲母、長石		
第7回8	14号土坑	刺 突	沈縫、圓形貼付文	水褐色	石英		
第7回9	9-14号土坑	刺 突	集合比縫	灰褐色	石英、赤色粒子		
第7回10	14号土坑	刺 突	沈縫	明褐色	金雲母、長石		
第7回11	14号土坑	刺 突	沈縫、編文R	黑褐色	金雲母、赤色粒子		
第7回12	14号土坑	刺 突	沈縫、編文R	褐色	黑雲母、石英、長石		
第7回13	14号土坑	刺 突	編文R	褐色	黑雲母、石英、長石		
第7回14	15号土坑	刺 突	編文R、沈縫	灰褐色	石英、長石、赤色粒子	4-2-1	
第7回15	15号土坑	口縫部	沈縫、編文R	黑褐色	石英、長石	4-2-2	
第7回16	15号土坑	刺 突	沈縫、編文R	灰褐色	石英、長石	4-2-3	
第7回17	15号土坑	刺 突	沈縫、編文R	赤褐色	石英、長石	4-2-4	
第7回18	15号土坑	刺 突	沈縫、刺突	灰褐色	石英、長石	4-2-5	
第7回19	15号土坑	口縫部	沈縫、刺突	灰褐色	石英、長石、赤色粒子	床面直上出土	4-2-6
第8回1	16号土坑	刺 突	沈縫	黑褐色	石英、長石		
第8回2	16号土坑	刺 突	沈縫、編文R	灰褐色	石英、長石、赤色粒子		
第8回3	16号土坑	刺 突	沈縫、編文R	灰褐色	石英、長石		
第8回4	16号土坑	刺 突	沈縫、編文R	赤褐色	金雲母、石英、長石		
第8回5	16号土坑	刺 突	沈縫	灰褐色	金雲母、長石、赤色粒子		
第8回6	16号土坑	刺 突	沈縫	黑褐色	石英		
第8回7	16号土坑	刺 突	沈縫、編文R	灰褐色	石英、長石、赤色粒子	床面直上出土	4-3-1
第8回8	17号土坑	刺 突	沈縫、編文R	灰褐色	石英、長石、赤色粒子	4-3-2	
第8回9	17号土坑	刺 突	沈縫、編文R	灰褐色	石英、長石	4-3-3	
第8回10	17号土坑	刺 突	沈縫、編文R	赤褐色	金雲母、石英、長石		
第8回11	17号土坑	刺 突	沈縫、編文R	赤褐色	金雲母、長石、赤色粒子		
第8回12	17号土坑	刺 突	沈縫	黑褐色	石英		
第8回13	17号土坑	刺 突	沈縫、編文R	灰褐色	石英、長石、赤色粒子		
第8回14	18号土坑	刺 突	沈縫、編文R	灰褐色	石英、長石、赤色粒子		
第8回15	18号土坑	刺 突	沈縫、編文R	灰褐色	石英、長石、赤色粒子		
第8回16	18号土坑	刺 突	沈縫、圓形刺突	灰褐色	石英、長石、赤色粒子	4-3-3	
第8回17	18号土坑	刺 突	沈縫、編文R	褐色	石英、長石、赤色粒子	4-3-4	
第8回18	18号土坑	刺 突	沈縫	灰褐色	石英、長石、赤色粒子	4-3-5	
第8回19	19号土坑	刺 突	沈縫、編文R	灰褐色	石英、長石、赤色粒子	床面直上出土	4-3-6
第8回20	19号土坑	刺 突	沈縫、編文R	赤褐色	金雲母、石英、長石	4-3-7	
第8回21	19号土坑	刺 突	沈縫、刺突	赤褐色	金雲母、石英、長石	床面直上出土	4-3-8
第8回22	19号土坑	刺 突	沈縫	灰褐色	石英、長石、赤色粒子	4-3-9	
第8回23	19号土坑	刺 突	沈縫	灰褐色	石英、長石、赤色粒子	4-3-10	
第8回24	19号土坑	刺 突	沈縫	灰褐色	石英、長石、赤色粒子	4-3-11	
第8回25	19号土坑	口縫部	ナダ	灰褐色	黑雲母、石英、長石	4-3-12	
第8回26	19号土坑	刺 突	ナダ、刺突?	灰褐色	金雲母、石英、長石	4-3-13	
第9回1	20号土坑	刺 突	沈縫	黑褐色	石英、長石、赤色粒子		
第9回2	20号土坑	刺 突	沈縫	灰褐色	石英、長石		
第9回3	20号土坑	刺 突	沈縫	灰褐色	黑雲母、石英、長石、赤色粒子		
第9回4	20号土坑	刺 突	沈縫	明褐色	石英、長石		
第9回5	5-20号土坑	刺 突	沈縫	灰褐色	石英、長石		
第9回6	6-20号土坑	刺 突	沈縫	灰褐色	金雲母、石英、長石、赤色粒子	漆 黑	
第9回7	7-20号土坑	刺 突	沈縫	灰褐色	金雲母、石英、長石	床面直上出土	4-3-14
第9回8	8-21号土坑	刺 突	ハの字沈縫	灰褐色	金雲母、石英、長石	4-3-15	
第9回9	9-21号土坑	刺 突	沈縫	明褐色	金雲母、石英、長石	床面直上出土	4-3-16
第9回10	21号土坑	刺 突	沈縫	明褐色	金雲母、石英、長石	床面直上出土	4-3-17

第3表 土坑内出土の土器観察表(2)

No.	器種	大きさ(cm)	石質	伴出遺構	備考	同版
第7回-4	石盤	2.3	3.7	0.6 集塊石	11号土坑 覆土中	空形 4-1-2
第8回-7	石盤	3.4	(1.5)	0.5 チャート	16号土坑 覆土中	片側脚部欠損 4-1-3

第4表 土坑内出土の石器観察表

第3章 遺構外出土遺物

1. 土器 (第10・11図、第5表、図版5-1)

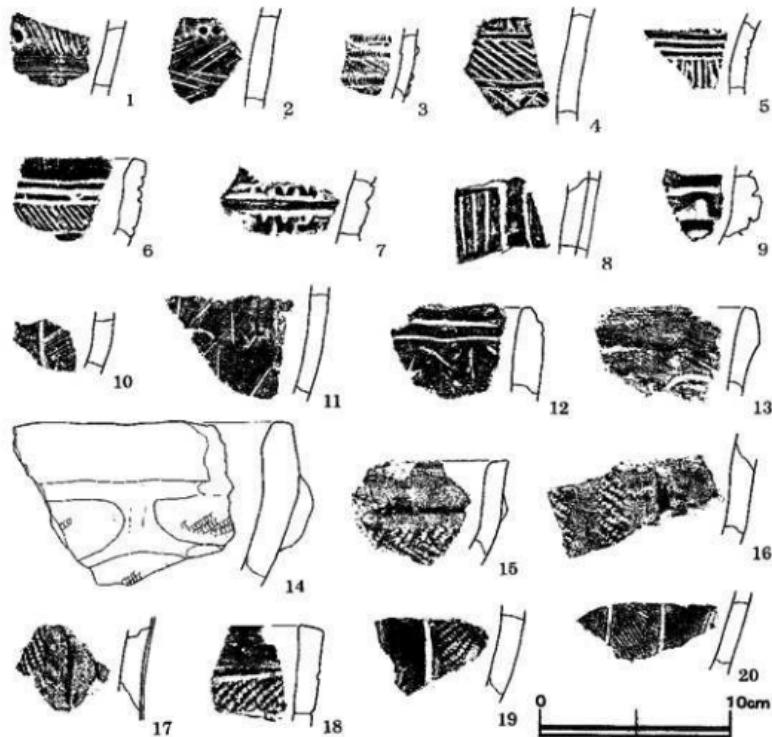
遺構外からは多くの土器が出土している。このうち、紙面の都合上一部のものについて掲載した。

1~7は縄文時代前期後半~中期初頭に相当し、1・2は諸磯c式、6・7は五領ヶ台式であろう。

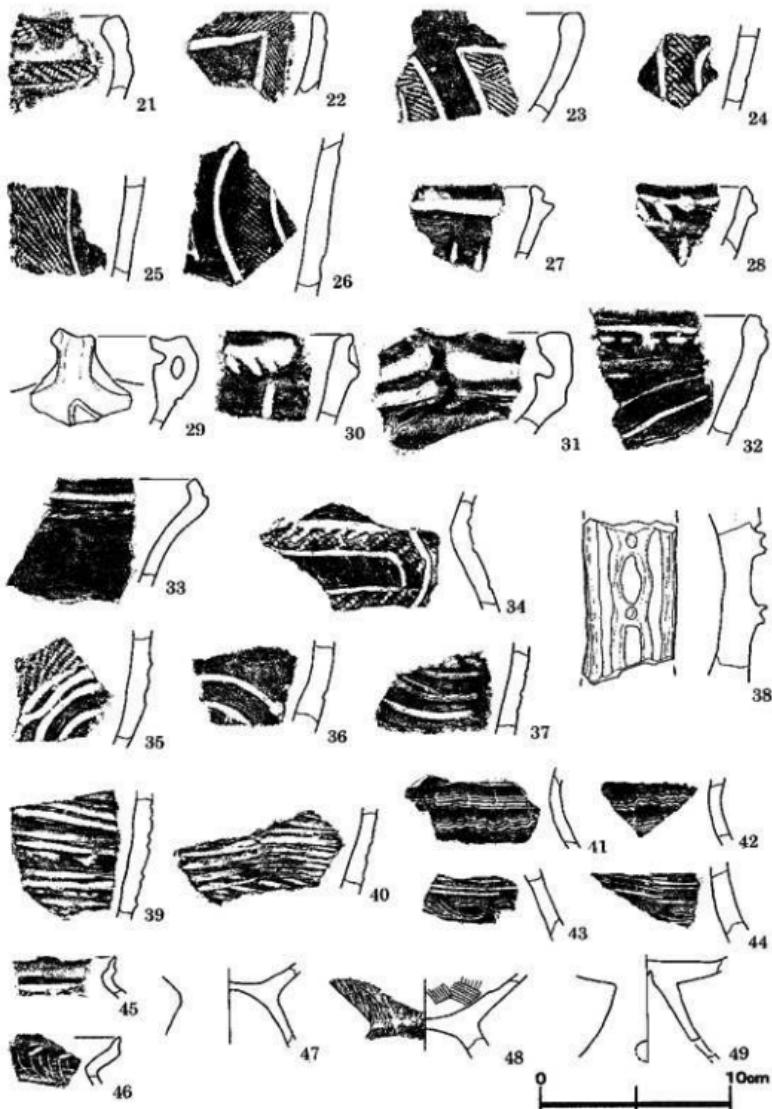
8~26は縄文時代中期~後期初頭に相当し、8・9は中期中葉、14以外の10~20は皆利V、加曾利EIV式でこの時期のものは中期末葉のもので比較的まとまりがある。また、21~26は中期末葉~後期初頭のものと思われる。

27~38は縄文時代後期堀ノ内式で、今回の調査で中期末葉のものとともに量的にも豊富に出土している。

39~44は条痕文と櫛搔状文の弥生土器で、45~49は古墳時代前期に相当する。



第10図 遺構外出土の土器 (1)



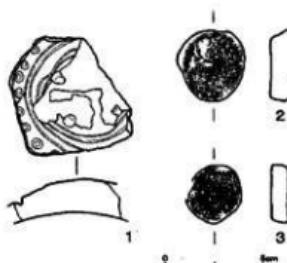
第11回 造構外出土の土器 (2)

No.	出土地区	種類	部位	文様・調査	色調	胎土	備考	図版
第10回 1	A区	縄文沿岸	筒 体	朱合文綴、円形貼付文	赤褐色	黒雲母、石英、赤色粒子		
第10回 2	A区	縄文沿岸	筒 体	集合化綴、円形貼付文	赤褐色	黒雲母、石英、赤色粒子	5-1-1	
第10回 3	C区	縄文中期	筒 体	縄文綴、筋跡付文	にぶい赤褐色	セメント、石英、小石		
第10回 4	C区	縄文中期	筒 体	集合化綴	にぶい赤褐色	セメント、石英、白色粒子	5-1-2	
第10回 5	A区	縄文中期	筒 体	集合化綴	にぶい赤褐色	セメント、石英、長石	5-1-3	
第10回 6	A区	縄文中期	I様部	沈 線	にぶい赤褐色	黒雲母、赤色粒子、小石	5-1-4	
第10回 7	A区	縄文中期	筒 体	沈 線、文刺付文	明褐色	石英、長石、白色粒子	5-1-5	
第10回 8	A区	縄文中期	筒 体	沈 線、附着	にぶい赤褐色	石英、長石、白色粒子	5-1-6	
第10回 9	A区	縄文中期	筒 体	沈 線、附着	にぶい赤褐色	石英、長石、白色粒子		
第10回 10	A区	縄文中期	厚 底	沈 線、多文綴	にぶい赤褐色	黒雲母、石英、赤色粒子		
第10回 11	A区	縄文中期	厚 底	「八」の字沈綴	にぶい赤褐色	金雲母、長石、赤色粒子	5-1-7	
第10回 12	A区	縄文中期	口縁部	「八」の字沈綴	にぶい赤褐色	金雲母、石英、長石、白色粒子	5-1-8	
第10回 13	A区	縄文中期	口縁部	沈 線	にぶい赤褐色	金雲母、石英、長石、赤色粒子		
第10回 14	A区	縄文中期	口縁部	縄文LR、壓型	にぶい赤褐色	石英、長石、赤色粒子	5-1-9	
第10回 15	A区	縄文中期	I様部	縄文LR、壓型起	赤褐色	金雲母、長石、赤色粒子	5-1-10	
第10回 16	A区	縄文中期	筒 体	縄文LR、微隆起	赤褐色	金雲母、長石、赤色粒子		
第10回 17	A区	縄文中期	筒 体	縄文LR、微隆起	赤褐色	金雲母、長石、赤色粒子	5-1-11	
第10回 18	B区	縄文中期	口縁部	縄文LR、沈 線	赤褐色	黒雲母、長石		
第10回 19	A区	縄文中期	厚 底	縄文LR、沈 線	赤褐色	金雲母、長石、赤色粒子		
第10回 20	A区	縄文中期	厚 底	縄文LR、沈 線	赤褐色	黒雲母、長石		
第11回 21	A区	縄文中期～後期	口縁部	縄文LR、沈 線	赤褐色	黒雲母、長石		
第11回 22	A区	縄文中期～後期	口縁部	縄文LR、沈 線	にぶい赤褐色	黒雲母、石英、長石	5-1-12	
第11回 23	B区	縄文中期～後期	口縁部	縄文LR、沈 線	にぶい赤褐色	金雲母、石英、長石、赤色粒子	5-1-13	
第11回 24	B区	縄文中期～後期	厚 底	縄文LR、沈 線	赤褐色	金雲母、石英、長石、赤色粒子		
第11回 25	A区	縄文中期～後期	厚 底	縄文LR、沈 線	赤褐色	金雲母、白英、長石		
第11回 26	A区	縄文中期～後期	厚 底	縄文LR、沈 線	赤褐色	金雲母、白英、長石		
第11回 27	A区	縄文後期	口縁部	沈 線	にぶい赤褐色	金雲母、長石、赤色粒子		
第11回 28	A区	縄文後期	I様部	沈 線、剥落	赤褐色	石英、長石、赤色粒子	5-1-14	
第11回 29	A区	縄文後期	安瓿部	沈 線	黒褐色	黒雲母、長石、赤色粒子	5-1-15	
第11回 30	A区	縄文後期	口縁部	沈 線、剥落	にぶい赤褐色	石英、長石、赤色粒子		
第11回 31	A区	縄文後期	口縁部	沈 線、剥落	赤褐色	黒雲母、石英、長石	5-1-16	
第11回 32	A区	縄文後期	I様部	沈 線、剥落	にぶい赤褐色	金雲母、石英	5-1-17	
第11回 33	A区	縄文後期	口縁部	沈 線	にぶい赤褐色	金雲母、長石		
第11回 34	A区	縄文後期	厚 底	縄文LR、沈 線	赤褐色	金雲母、長石、赤色粒子		
第11回 35	A区	縄文後期	厚 底	沈 線、縄文LR	にぶい赤褐色	金雲母、長石、赤色粒子		
第11回 36	A区	縄文後期	厚 底	沈 線	赤褐色	金雲母、石英、長石、赤色粒子		
第11回 37	A区	縄文後期	厚 底	沈 線	赤褐色	金雲母、石英、長石		
第11回 38	A区	縄文後期	把手部	剥壳、剥落	赤褐色	金雲母、石英、赤色粒子		
第11回 39	B区	彌牛	厚 底	本體文	にぶい赤褐色	金雲母、石英、長石、赤色粒子	5-1-18	
第11回 40	A区	彌牛	厚 底	本體文	にぶい赤褐色	金雲母、石英、長石、赤色粒子		
第11回 41	B区	彌牛	厚 底	橢形底支足、橢形底支足	にぶい赤褐色	黒雲母、長石	5-1-19	
第11回 42	B区	彌牛	厚 底	橢形底支足	黒褐色	黒雲母、石英		
第11回 43	A区	彌牛	厚 底	橢形底支足	赤褐色	石英、長石、赤色粒子	5-1-20	
第11回 44	A区	彌牛	厚 底	橢形底支足	赤褐色	石英、長石、赤色粒子		
第11回 45	A区	土師器	口縫部	ハケ	灰褐色	黒雲母、石英		
第11回 46	A区	土師器	口縫部	ハケ	赤褐色	黒雲母、石英		
第11回 47	A区	土師器	厚 体	ナゲ	褐色	金雲母、黒雲母、長石	5-1-21	
第11回 48	A区	土師器	厚 体	ハケ	赤褐色	黒雲母、石英、赤色粒子		
第11回 49	A区	土師器	口縫部	ミガキ	赤褐色	石英、長石	5-1-22	

第5表 遺構外出土の土器観察表

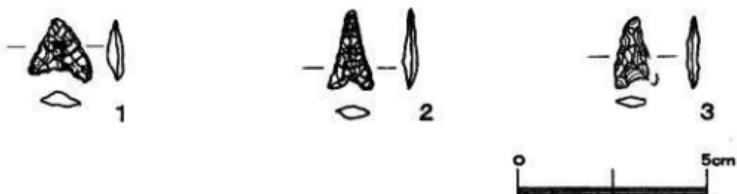
2. 土製品(第12図、図版5-2)

1は、蓋と思われるが欠損が著しい。沈線と円形の刺突による文様が施されている。2・3は、いわゆる土製円盤であるが、文様は認められない。2は長径3.7cm、短径3.5cm、厚さ1.0cmで周縁部は良く研磨されている。3は長径3.0cm、短径2.7cm、厚さ0.9cmで一部に欠損部分があるが、それ以外は良く研磨されている。

第12図 遺構外出土の土製品
(1-土製蓋、2-3-土製円盤)

3. 石器（第13図、第6表、図版5-3）

石器は石錐3点と黒曜石製の木製品2点があり、このほか92点の黒曜石を主とした剥片類が出土している。



第13図 通構外出土の石器

No.	器種	大きさ(cm)			石質	出土地点	備考	図版
		最大長	最大幅	厚さ				
第13回-1	石錐	1.7	1.6	0.4	黒曜石	(魚介層、黒色土層中)	光形	5-3-1
第13回-2	石錐	2.0	1.2	0.4	黒曜石	A区(魚介層、黒色土層中)	光形	5-3-2
第13回-3	石錐	1.9	(0.9)	0.3	黒曜石	(魚介層、黒色土層中)	片側面部欠損	5-3-3

第6表 通構外出土の石器観察表

ま と め

金の尾遺跡は、弥生時代の大規模な集落跡と墓域、環濠跡が確認されていることで岩名であるが、敷島町内では現在のところ数少ない縄文時代の遺構・遺物が最も多く確認される遺跡である。

今回のⅡ次調査では、縄文時代に相当するとみられる土坑23基を確認することができた。遺構内から出土する遺物は多くが覆土中からの出土で、貢川に近接し古い時期にこの川の影響を受けたためであろうか、同一遺構内から複数の時期のものを伴って出土しているものもあり、特異な出土状況を示している。

さて、大規模な調査がおこなわれたⅠ・Ⅳ次調査の結果をもとに本遺跡の縄文時代の様相を概観すると、前期の住居跡1軒、中期の住居跡8軒があり、総体的に中期の遺構・遺物が多く発見される傾向にある（註）。

今回出土した土坑内および遺構外からの土器をみると、これまでの調査で得られたような中期の遺物のはかに、後期の資料（とくに堀ノ内式）が比較的まとまって出土していることが調査成果の一つといえよう。ちなみに後期の遺物はⅠ・Ⅳ次調査でも出土しているが、その出土量は調査面積に比してきわめて少ない。

のことから、縄文時代における金の尾遺跡は中期（中葉および末葉）を主体とする遺跡であるが、今回の調査地点を中心とする本遺跡南部の貢川周辺には、縄文時代後期の遺構・遺物が他にも埋没している可能性が高い。

今後、金の尾遺跡における縄文時代の詳細な土地利用の変遷について明らかにしていく上でも、さらなる調査が期待される。

(文責 小坂)

註：金の尾遺跡 IV次調査については、現在整理中である。

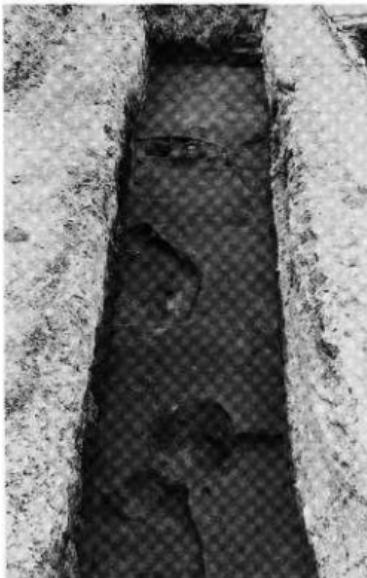
参考文献：山梨県教育委員会 1987 「金の尾遺跡・無名墳（きつね塚）」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第25集

写 真 図 版

圖版 1



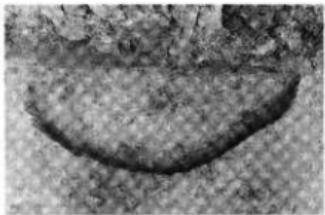
1. A区全景



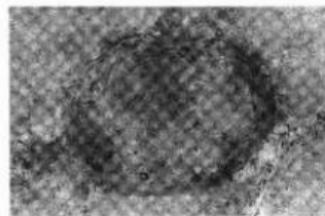
2. B区全景



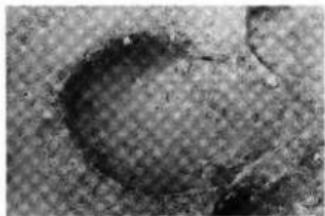
3.
1号
土坑



4.
2号
土坑



5.
3号
土坑



6.
4号
土坑

図版2



1.
5号土坑



2.
6号土坑



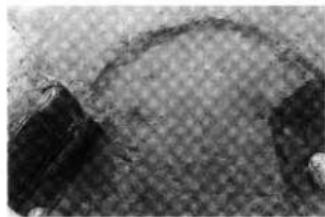
3.
7号土坑



4.
8号土坑



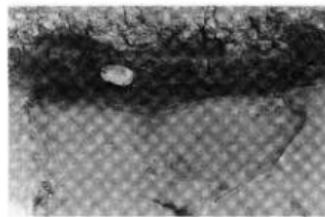
5.
9号土坑



6.
10号土坑



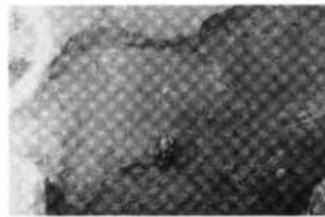
7.
11号土坑



8.
12号土坑

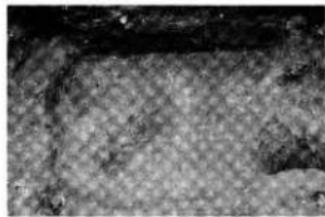
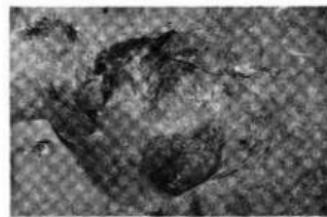
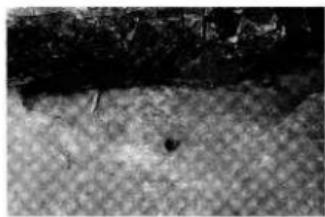
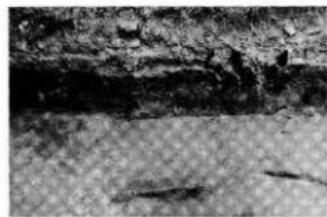
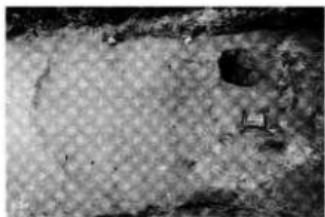
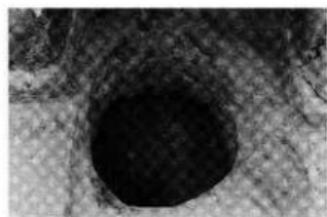
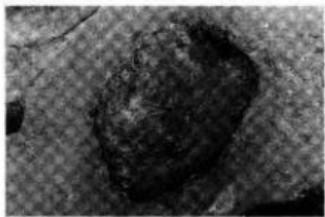


9.
12号土坑蓋出土状況



10.
13号土坑

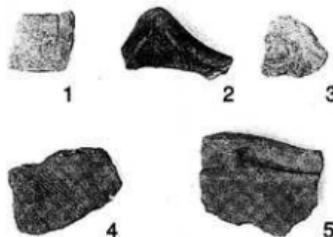
図版 3



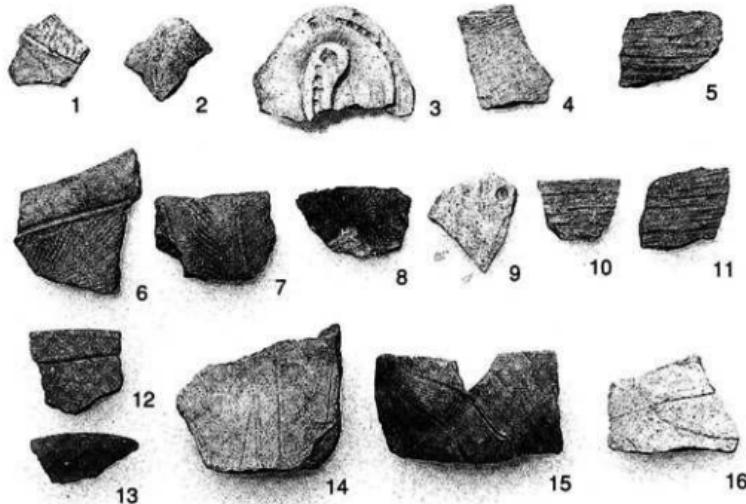
図版 4



1. 11・12・16号土坑出土遺物

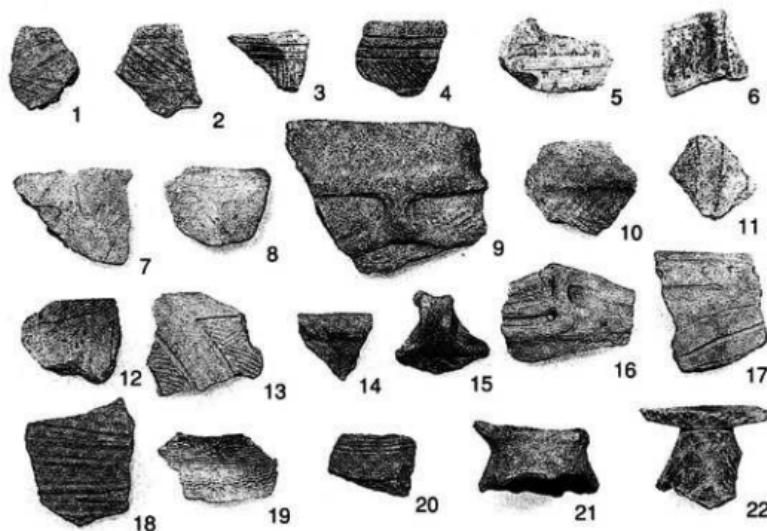


2. 15号土坑出土土器

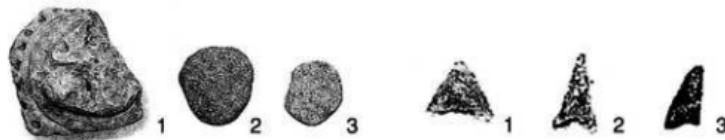


3. 18・19・21号土坑出土遺物

図版 5



1. 遺構外出土の土器



2. 遺構外出土の土製品



3. 遺構外出土の石器



4. 調査風景

報告書抄録

ふりがな	かねのおいせき							
書名	金の尾遺跡Ⅲ							
副書名								
卷次								
シリーズ名	敷島町文化財調査報告書							
シリーズ番号	9							
編著者名	大島正之・小坂隆司							
編集機関	敷島町教育委員会							
所在地	〒400-0123 山梨県中巨摩郡敷島町島上条1020							
発行年月日	平成13年(2001)3月1日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	度分秒	度分秒			
かねのおいせき 金の尾遺跡	山梨県 中巨摩郡 敷島町大下条 616-1外	193928	1			平成4年 2月19日～ 平成4年 3月10日	100	町道建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
金の尾遺跡		縄文時代	土坑23	縄文土器 弥生土器 土師器 石器	縄文時代の土製蓋出土。			

敷島町文化財調査報告 第9集

金の尾遺跡Ⅲ

発行日 2001年(平成13)3月1日

発行 敷島町教育委員会

山梨県中巨摩郡敷島町島上条1020

TEL (056) 277-4111

印刷 有限会社 佐藤印刷企画

